

寛永諸家譜

清和源氏章七冊之内  
義光流之内甲列支流

51

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 ( 51 )
函號	76 1

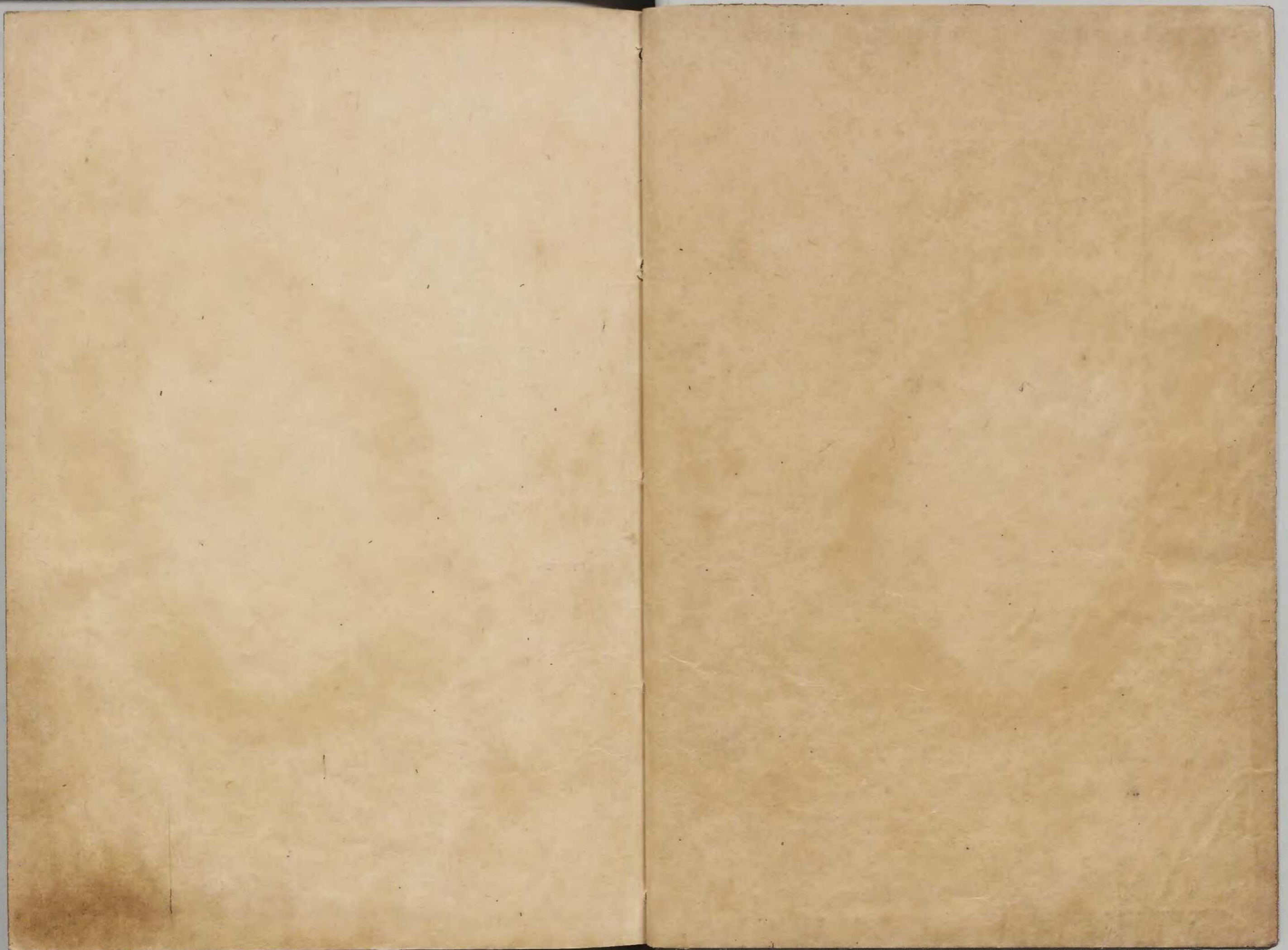


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak





杉井	田澤
橋井	清野
飯室	西文
源忠	曾唯
鎮目	小宮山
小友	塙原
久保田	坂本
香本	石本

寛永諸家系圖傳

清和源氏

辛七



甲別支流

今葉より清和源氏之末裔之乃孫也  
 甲別より清和源氏之末裔之乃孫也  
 甲別源氏と稱するものありて其の末裔  
 子孫ありていへんや其の末裔甲別と  
 稱し其の末裔と稱すものありて其の末裔  
 小友より今刻までいへん家系図なり

とて武田末流乃内に入仕一冊のす  
ふ所共出所つすいひつゝあつすいひつゝ  
家傳清和源氏の末と稱し其先  
祖も又甲別乃人なりす武田建業  
と云ふ事ありしに  
いふに武田末流乃内に入仕一冊のす

朽井

● 次後

左衛門尉 生國甲斐

武田信繩信虎父子

六月二日死す六十九歳 法名宗亮

次久

内記 生國同系

信虎信玄父子ありつゝ  
二月十日死す年十八歳 比名樹冬

次昌

市原の尉 淺路守 生國河前

信玄勝頼よりけり

之是元年正月十六日駿河花澤野

にありて軍志をげりす未しりて信玄

に建て感しり甲一より孫とてつ

うりら駿河田中よりありて

と別あゆむにありて首級あり

云ふ十年後田信長甲別より進發

勝頼自教以後

東照大権理甲別市川より浅路のこ

成瀬台右衛門尉養若あり

大権理をねりてまうり釣合ふり

妻子をとりて甲別桐山より

時より扶持ありてたまふ

同年六月信長薨去此後小原氏直  
甲別進發と二月と

大権現光がけ此共をつははる時次昌  
と甲別進發ししは次昌が一族なり  
は先方此輩津橋本小原せしを  
包しし給 物命と仰しむわく次昌は  
しよとせしはしよとらうとせしはけ  
ますゆへに武川の古率とくく津  
橋本小原すまれしわ小原に属せし

小治乃小屋とやらやありて  
不達と津感がめあすすしよく  
忠節しつす (まじし給  
大権現津出判乃清書とすしよく  
詞

於吾郡別命給立也  
名被相談汝可致神忠信  
之儀

七月十五日 家康清直判

米倉主計助  
お新市屋つね

之度新府小波沖ありて沖對陣力  
時次昌勲切々すけまきと是より不みく  
小降氏並より計策此所と通すりその  
二人あり其川乃諾士とあひらり  
くこれよりらとる

大修理これと感とたまひ又沙書と下  
これく本領乃地敷々所を治りて是  
安率五十人と治けらぬ  
天正十二年尾別小波陣の付け存

ころ時 釣合ふりて同玉一宮此  
沖城番とけし

同十二年九月信別真田表(軍兵)  
をつけたり時次昌は地へ不みく  
軍功とけまきと其子と質と  
く強別不敵とつくとすり  
同十八日小田原陣乃信存の陣中  
不みく病なりすとすふあやうん  
とす此時より何とるく波島を跡と婦子

九郎高下治下九郎治郎領事  
西此領地と治下仁領つよふに  
登りしり言ふくすから治者  
大権理と有湯と  
同日八月甲午死す六十八歳  
道白

次忠

市乃歩の 生國同前

大権理よりつよふに  
号長十九年十一月二日病死  
卒一歳治下系心

次吉

仁乃歩の 生國同前

大権理國東治入國の時信奉と  
或別鉾形よりなる領地とつよふ  
次昌忠切といふと小治者といふ



さきく領地あり

天正十九年奥州陣北に陣あり

是年西に陣あり

台津院殿よりあるひあり侍奉す

大坂清陣の時侍奉す

元和九年台津院殿より侍奉す

忠長御小侍より侍奉す

將軍殿より侍奉す

寛永十七年八月侍奉す

寶苑乃書と勅し

政次

市代書り 生國氏秀

大権現

台津院殿より侍奉す

大坂清陣の時又次忠長より侍奉す

あふより政次軍役より侍奉す

政次十一年

寛永十二年閏二月八日死と云  
六葉 法名昌唐

政勝

左京 出陣同前

寛永五年正月十五日御薨

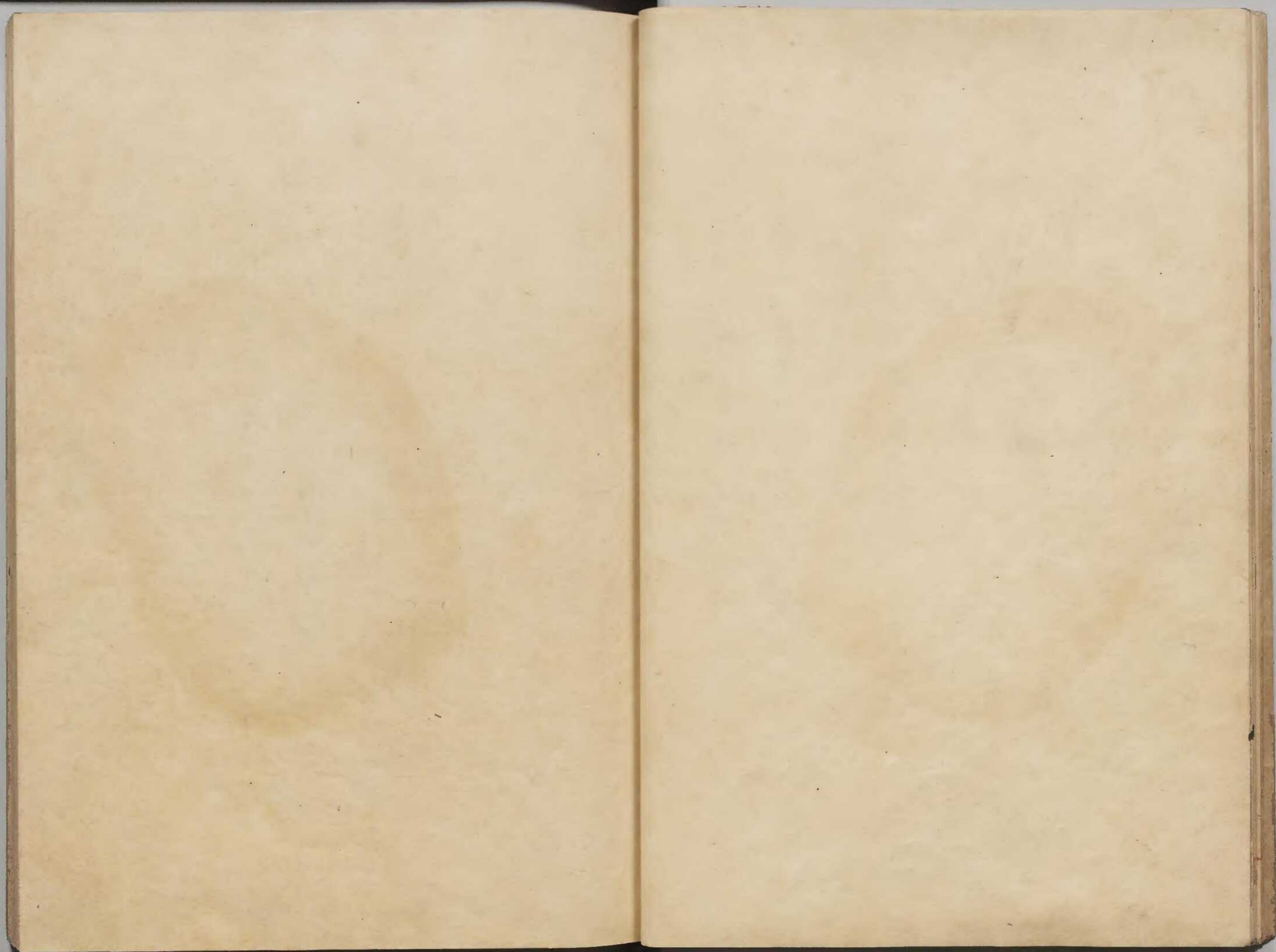
台徳院殿

將軍 御薨

同十二年十一月廿八日 御薨

多中 奥河小姓 御薨  
同十六年十二月廿日 御薨  
河原 御薨

家紋 二本杵  
幕紋 井松



杉井すぎい

● 門安かどやす

入戸野和泉いりどのわいせん

生國甲斐なまくにのこうかい

武田信玄たけだののぶひら

門克かどかつ

又岩衝尉またいわきり

生國同前なまくにのさき

比呂宗昌ひろむね

信玄勝頼父子より

甲別落居乃後

大権現よりつゝくまひ

次正

折井主水 生國回前 法乃常態

入戸野とわいめく折井と孫考

勝頼よりつゝ甲別落居の後氏

謀すくわ

大権現一石出されぬ湯と昔後

台徳院殿よりつゝくまひ

門次

小大出の尉 生國回前

實ハ門をえがみあり 伯父治正が養子

あつゝ

台徳院殿

將軍よりつゝくまひ

家  
級  
凡  
乃  
内  
井  
抄

田澤

東

生國甲州 武田信玄小治政  
東郡乃内一にありて地  
十歳ありて死す 治政  
宗次

正後

生十郎 生國同前

信玄よりつゝ二十歳より死す

忠  
まこと

七名歩尉 生國同前

信玄勝頼父子よりつゝ

甲州落城乃後

東照大権現よりつゝ在る武州北内總河

村用と村よりつゝにありて四郎孫より後

乃清陣よりつゝ清とあり乃付在

忠  
まこと

乃乃忠の けりも同前

大権現よりつゝ在る同原清陣此時在

ち後ある清陣の時

台徳院殿よりつゝいほ在る

之和七名大坂清妻此中より病死す

時より十七歳



昌重

次方妻の 生國 氏務

十五歳乃時 出立

台酒院殿と 有得寸

之利乃手 病死時よ 二十九歳

昌次

高島乃妻の 生國 氏務

八歳

昌次

台酒院殿を 有なり 十八歳乃時

大酒毒と 勅じ

久乃乃 生國 氏務

十七歳

台酒院殿と 有なり 有得寸

父正久乃 取入に 病死す

大坂小中 城毒と 勅じ

正勝 まさかつ

七十九 生國回前

十一歳 あし

將軍 あし 福 ふく ありて十九歳乃時 あり

法 あり 寛永十八年 あり

家 あり 紋 あり 乃 あり 内 あり 小 あり 槌 あり

梅井

● 信定

河内守 甘國甲別  
本回信虎ノ子

信忠

安藤守

生玉同前

信玄勝頼父子一つ一つ甲別没落此後  
百おこまき

東照大権現一つ一つ守り甲別乃内

本領の地と給りり清米平以敷

天正十八年釣合よりわく甲別乃

折以とまきくろれ

右権現の合より平岩主計と尾別

合つれとまきくろれ信忠甲別の

城とあぶら

安長十六年病死八十歳

信玄

清康 甲國回前

武田勝頼一つ一つ甲別没落此後

大権現一つ一つ守り

天正十二年小牧清陣此時

同十三年病死時二十五歳

之後

實に蘇麻は眼がまわり信忠より御まこと  
まじく其年こがらふより其れと  
おろし

正杉

右の 生國寺  
寛永十一年  
台酒院殿とありて

正勝

寛永十一年  
將軍殿とありて  
生國寺  
寛永十二年  
將軍殿とありて

信茂

市右衛門 出陣回

寛永十三年

台榭殿よりつゝそまひる

同十九年大坂陣の時と江戸法藏

所番と勤し翌年大坂陣に

高来主ある結ぶく結ぶ

元和二年より忠長郷より

寛永十一年

將軍殿へ一玉され有備と

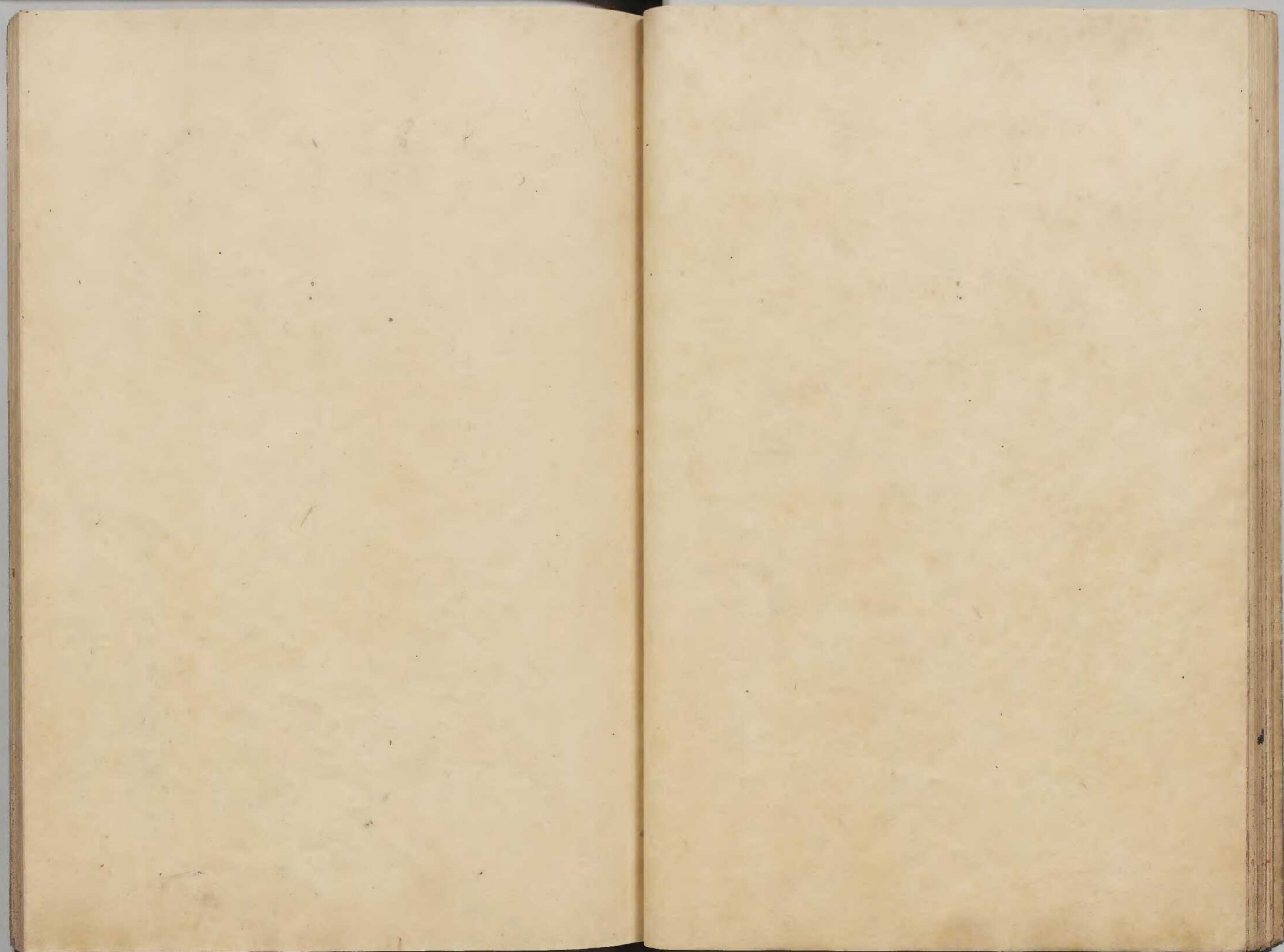
信昌

市十郎 出陣回

寛永十二年

將軍殿よりある

家紋九曜



清野

● 満成

越中守

生國甲州

武田信玄勝頼父子

天正十年

右條現甲州清入國ありて新府に城を築

たてしむるに時若田右衛門作が功あり



うらうらうと何〜と云々

大樽櫻オウゴン〜と云々いふをいふ

是れもその同系法陣小樽車オウゴン

寛永六年正月廿三日六十五歳と云々病死

酒波サウハ

助右衛門 生年同前

台酒院殿一川と云々 右坂南度北法陣

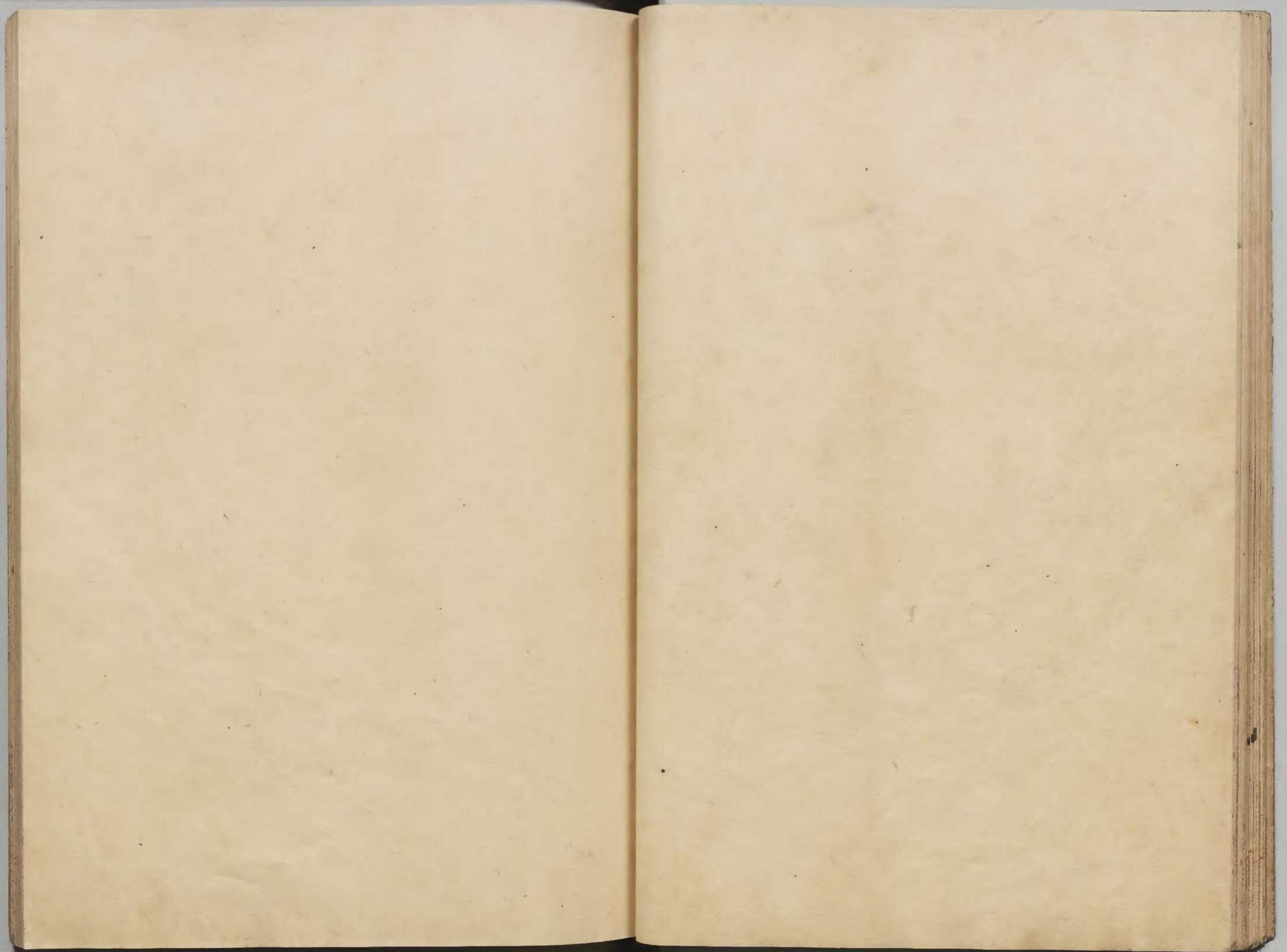
平法陣

満久マンキウ

生年同前 生年同前

將軍殿と云々〜と云々

家紋是乃内よとの字トノ



飯室いひむろ

●昌定まさあき

越前守 生國なまくに甲斐

一 幸田信玄ゆきだののぶ子こ了りょう

昌忠まさただ

内務助 中務なかつむ河内

信玄のぶ勝頼かつらう父子ちちこ了りょう

昌喜 あきひろ

治部右衛門 中納言

膳頼 あきら 一ツノヒコ

東照大権現 一ツノヒコ

台酒院殿 一ツノヒコ

元和九年七月二日病歿

昌喜の墓 法名淨英

東 あき

与吉兵衛 中納言

大権現 一ツノヒコ

昌成 あきなり

侍八郎

昌勝 あきかつ

八郎 与吉 与吉兵衛

台酒院殿

乃軍家とありてくまひる

昌成

市高たあり 牛馬回あり

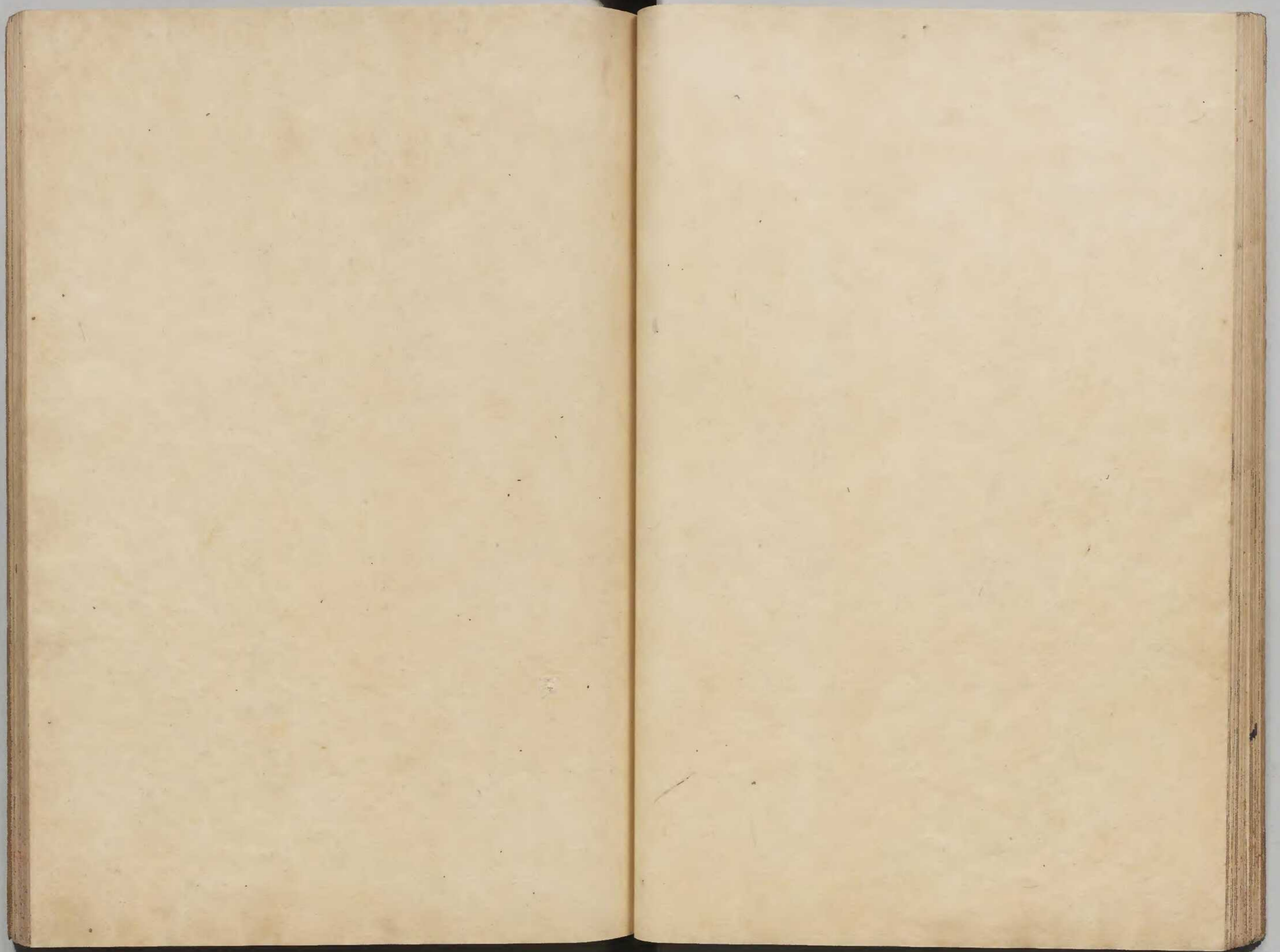
乃軍家一ありてくまひる

昌成

市高たあり 牛馬回あり

乃軍家とありてくまひる

家級とありてくまひるの扇



雨宮 あまみや

● 家次 いえつぎ

十号出 生國甲別

武田信玄あまみや高義信(あまみや) 義信自叙の境小糸氏康(あまみや) 軍切あまみや 威治(あまみや) 道(あまみや) 具 肉二通いあまみや 雨宮(あまみや) 信(あまみや) 玄(あまみや) 具

ついでに勝頼もくつ子  
天正三年乙未一月廿一日長原合戦あり  
討死時一十三歳 法名法観

昌茂

辛酉 長原合戦あり  
長原合戦あり 討死の時勇功あり  
天正十年 昌茂 感はとらづ

東照大権現男別法入國此時正徳  
文長八年甲午七月廿七日 初死 年二十六  
法名宗照

政勝

移居米門 生國回前  
大権現  
台酒院殿  
將軍 忠一 在



寛永六年正月十二日甲午十八歳少く死す  
法名淨玄

重次

精古史の 生國因前

台酒院殿一ツノ寺あり其名 念ふふら

忠長卿あつら一ツノ寺あり

將軍殿あつら一ツノ寺あり

寛永十三年五月朔日病歿年六十一

法名忘月

政重

精古史の 生國因前

寛永十二年

將軍殿あつら一ツノ寺あり

政次

精古史の 生國因前

之和七手

將軍象こゝろ下こゝろ有こゝろ請こゝろ一こゝろ字こゝろ

家級こゝろ死こゝろ於こゝろ下こゝろ上こゝろ乃こゝろ字こゝろ

深見 ふかみ

初小田切後深見 初小田切後深見

光季 みつゆき

小田切古馬若菜 生玉甲州  
信玄勝頼 しんげん かつらね

正徳 しょうとく

深之生國同前

大権現とありあり 保元頼宣卿

しほふ

之初八月七月死に二十八歳 法名正圓

正利

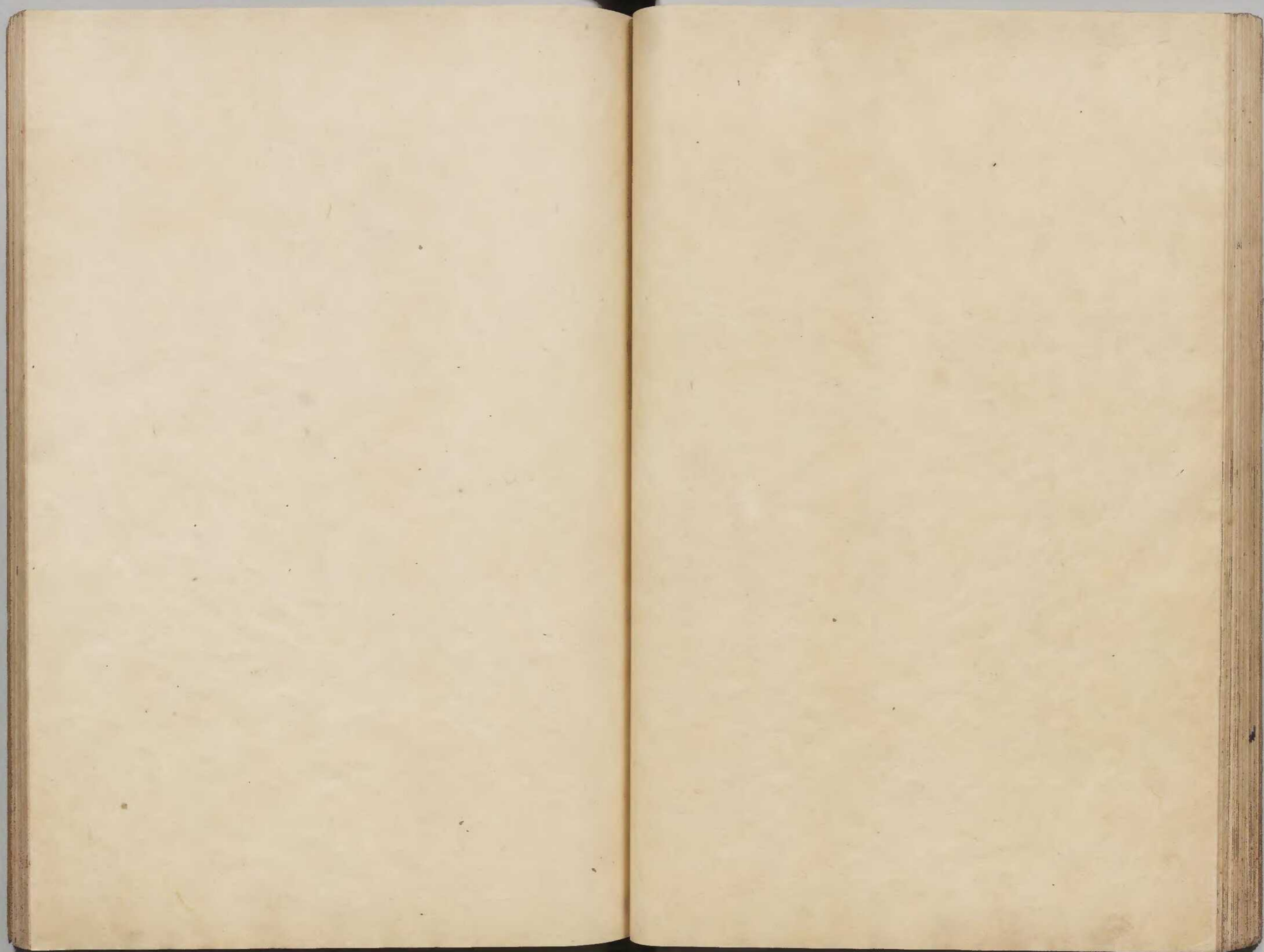
源氏平家 生國駿河

幼少乃時源氏を島に更来 養子あり

二進小より源氏と稱号とを島

更ハ大久保相模守忠隣に了

家紋七格紋



為雄

定能

對馬守

出國甲斐

或田信虎信玄子

永祿十年十二月廿一日病歿七十九歲

信長常守

定重

常刀

信玄

永祿十一年十月廿一日 上野義隆

不方討死時 四十五歳 信名澤

定政

民部 常刀

天正十年織田信長明智光秀がたふ

織せしき 後小茶氏直甲州 務

乃て定政

東照大権現の先陣小市川軍切てけ

ま 小茶 属す 小沼よりて定政

武川乃若く同く是と通理す

大権現新府小沼 名在りて款と清

對陣のとき定政軍忠とつて茶

ふく石をたれく 本領の地と給ふ

同十二年尾川 長子清陣に侍奉

同五ノ宮の城清書と勅し

同十二ノ年九月真田喜一

大権現共とつけり 時武川の者忠

功とつけます 時信川の隣玉清味方

ふまいつすこのゆへ人質と孩別なる

る 物命あへて定改らるら

妻子と孩別 具玉寺に献す是より

清忠判の清書 教通と武川の者

同く以載す

同十八年小田原陣の時信をす

同年同東清入玉の時長川陣形

おわく未地と給らる

是より二年奥別清陣の時信をす

同多開原清陣の時信をす

大権現乃命ふら

台清院殿と云ふなり 真田喜一

同九年十二月廿八日病死 年五十二

法名昌年



定清

又藤原一乃の定威

天正十年

大権現甲別清出馬の時定清亦定政と  
同く先陣せんじんふすんで戦功せんこうありしなり  
領地と存領と事定政が下しもに詳こまあり  
同十二年長久の清陣の時定政定清  
と共小宮乃城清番と勤し  
同十二年九月

大権現真田まのあたありしのち告士つしとつついいしし時

定清妻子と駿河真田まのあたとと敵てき

武川乃若く同清書教通きやくとう

同十八年小田原陣の時修しゆをす

同年園東清入玉乃時武別鉾こ

おわく領地と修しゆらふ

又長久の奥別清陣の時修しゆを

同年園東陣まのあた乃のちをす

大権現此命このみこととつけしあり

台漣院殿より馬つぐひを奉

大坂あきの清陣小供をす

寛永之序 釣合より川く忠孝郷

りつる

同十七年

將軍家へ百書これ清枝持方と給り

清殿守れ清書と勤し

久次

劫たき

寛永十八年

台漣院殿へ書し出され武川新水と給

たまり又伺へ奉と勤し

大坂あきの清陣小供を

之れ九年 信ふりて忠長卿ふり

まは清枝持方と給るは忠孝郷

ありて後寛永十六年

將軍家へ百書し書くと総内玉吉村より

領地とありし一奥方清原家清書と  
のしむ

定行

源光宗 中興甲斐

安長十九年六月廿二日病歿二十五歳

法名常一

定次

弥三乃妻 中興甲斐

安長十九年定次と中興以後

台清院殿の御命とありし兄定行を以て

をて

大坂あきの清陣傳を以て

寛永元年 御命とありし忠長卿

より一忠長卿逝去乃後清持持方

とありし

同十六年二月

將軍家へ百書とありしと臨の内田川村にあり

領地と稱する所敵守は清書と勅す

定後

平定 けしむ回あり

孝長十九の兄定行がまゝに定次

定後二人より治りあり

大坂南度の清陣小供あり

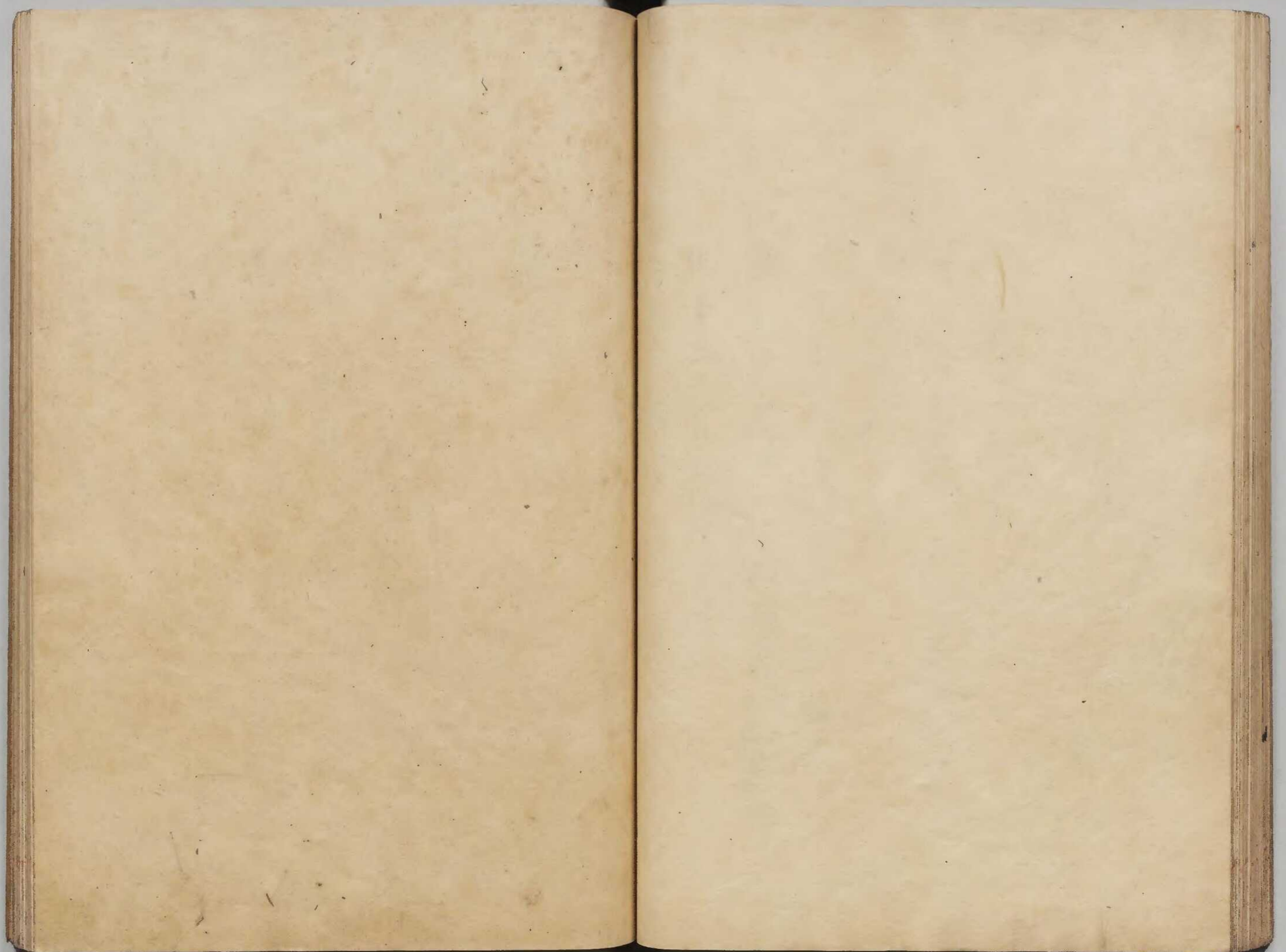
寛永元年 信とくあり忠長卿

より一人遊云乃後清扶持方と治りあり

同十七年八月

將軍あり一石書され清寶齋の山書と勅す

家紋痛達



● 某 たか

鎮目 ちんめ

古郎左衛門 出國甲別

或田信虎信玄父子

天正十年四月十日甲別 しんめい

惟真 いまま

左衛門

生玉河家

信玄勝頼父子にけり  
是より之より十月甲子申刻に病歿二十  
一歳法名玄昌

惟明

市原の 生ま回

天正十年甲子没落乃時惟明十五  
歳

東照大権現へ祈りし法道習りて

信玄の

文祿元年高麗陣の時

台津院殿清平がたしてめつけらる

是より其田陣乃時奔田村

ありは地中銃とつ寸法下知をなす

銃とありし其意は信玄

二手百のち後百出され大

法書乃鉛頭とれぬ

之和二手法後乃清代友とあり

將軍部（ひ）くくくくくく  
寛永四年七月十日佐別  
病死六十歳 法名宗清

元一  
惟吉

長門守 生國壽別

台徳院殿 某年十月十日  
之和甲子七月七日伏見  
病死

歳二十二

元一  
惟清

長門守 生國壽別

祖父惟明領地乃内五石

寛永九年十二月朔日

將軍部と存一

同十四年正月朔日



惟忠

夏告衆

其至同前

台德院啟

將軍家と有るにてもつり大書

勤し

寛永五年正月甲子日

歳二十七日

惟貞

格しぬ

其至同前

寛永六年正月

台德院啟と有るにても

同十四年十一月朔日

將軍家と有るにてもつり大書

勤し

惟重

其至同前

惟正

忠次郎

寛永九年十二月

將軍家とありて

同十二月より清書と勅し

家紋いなり内一と葉拍

ちびざら

小宮山

台定

い乃波門

生國甲斐

武田信玄勝頼父子

東照大権現甲州法入國北時

書こ色領地

長十二

台次

童名虎福 長谷米 生國同家

台次有手乃時女こふらりり台次河

相あいあひあひあ

台酒院殿とありとありと乃時

台徳院殿乃清童名と長君と一と奉

ふらりり台次と後河とふらりり

わらりり台次とけらりり長と

字を下られ長と即と号となり

又長谷米とありと

台酒院殿城川伏見と一渡清乃時と毎度

信と

又長之年病死時とふらりり十五歳

台成

長谷米 生國武院

台酒院殿とありと一となり

享長十九年大坂法陣乃時修事  
之和元年大坂法陣の時伏見法  
番と勅し

同六年

台法院殿の御命より

將軍よりつゝつゝつゝ

同九年

將軍家法入玉の時修事 依  
おわく痛しかり聖年御命より

おわく死す時より十一歳

台法

十太史の 生玉同史

之和六年

將軍家より修事を

台法

台法

之和七年武州御命より

寛永元年  
父九郎<sup>いさ</sup>幸<sup>さき</sup>治<sup>し</sup>と<sup>と</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>ふ

同四年

將軍家<sup>しんぐん</sup>と<sup>と</sup>あり<sup>あり</sup>て<sup>て</sup>あり<sup>あり</sup>

同十四年<sup>どうじゅうし</sup>津<sup>つ</sup>書<sup>しよ</sup>院<sup>いん</sup>書<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>勅<sup>とく</sup>じ

家<sup>いへ</sup>級<sup>きゅう</sup>九<sup>く</sup>乃<sup>の</sup>内<sup>うち</sup>小<sup>こ</sup>菴<sup>あん</sup>

六島むつしま

寛正かんせい

六島むつしま右みぎ邊へ

生國なまくに甲斐かひ

氏田うじの勝頼かつたのり

東照とうしょう大權現だいけんげん甲斐かひ川がわ津つ入いり玉たまの時とき々々

禮津れいづ代しろ有ありますま

宣重

長清門 生國回前

天正十九年

大権現よりあり大沙番と勅し

受長十六年 勅命より忠輝主

一属より代あり時より十四歳小

く病死 法名良庵

宣重

清右衛門 生國回前 法名良勝

大権現

台徳院殿一付より

宣勝

長清門 生國回前

忠輝主

元和四年

台徳院殿一付より

同十年



將軍家とありてあり

廣正

在乃斐門 生國回前

寛永四年

將軍家とありてあり

勝親

傳九郎 生國回前

寛永十六年

台津院殿とありてあり

元和九年

將軍家とありてあり

安次

清原即 生國回前

台津院殿

將軍家とありてあり

家紋の丸

● 茶

小宮山

本、藥袋昌重代、

と稱号

中三ノ  
穀類  
中五ノ  
甲安

成田  
信虎

台次

同清守 生國同前

信虎信玄父子

台重

教員 生國同前

信玄勝頼父子

天正十年

大権現甲州 涉入國此時台重父台次

台清院殿 此九月百市之れ有清長其後

昌重

清長之尉 生國同前

外男小宮山氏小宮山氏

小宮山氏

台清院殿

乃軍家



小菅  
初月小菅山

正倉

小菅山は清門尉中丞甲州  
氏田信玄より  
天正十年甲州清入國の刻  
大杉現へ出され存揚と

正成

固獄

生國回矣

信玄

天正十年甲別法入生乃別父西者

こた

大権現一石出たれつとて

正重

小夏八郎

外舅小夏折津守事の子となり

ふりて小宮山とわため小夏と号す

天正十五年

台湾院殿と有

將軍家へしつゝ

正成

伊右衛門 生國氏

寛永十二年

將軍家一侍<sup>り</sup>て<sup>り</sup>く<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>ふ

家紋乃内<sup>し</sup>打<sup>り</sup>板<sup>り</sup>



塚原

● 昌吉

但馬守

生國甲斐

武田信玄

勝頼

了

昌重

次郎

生國同前

杉英

東照大権現甲別沖入玉乃河石布々  
進立領地を了後

小田原清陣奥別清陣の侍を  
勤しうあり

台清院殿へはくちをり其田清陣殿

支清陣より侍を

寛永二年十月病死歳二十七は昌泉

次右清門

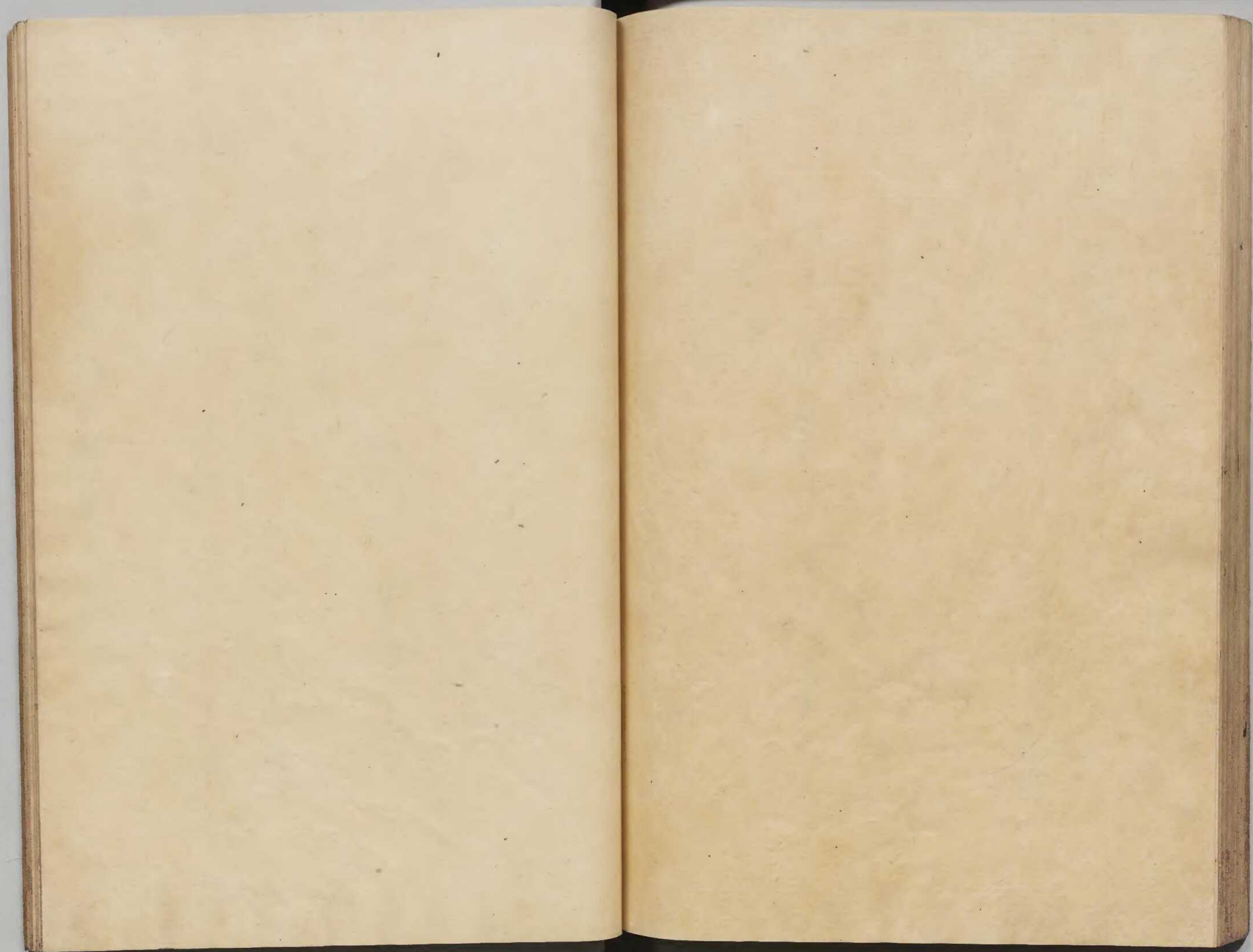
受又長十七年

台清院殿と有賜一をり右坂清陣小侍を

盟手右坂再礼の付望戸清城清毒

いけり

家紋丸乃内一ニ引



久保田

台網

藤之助 山城守 生國甲斐

氏田氏了

八十五歳之病死 法名道清

台續

作名清 生國同前

成田勝頼

云正二年五月廿七日  
成田長原  
死年二十七  
法名道徹

台政

友之部 惣右衛門 生五回

云正十年

東照大権現甲別 (清出) 此河百廿七  
別山 祭部 七郎 澤村 乙卯

同十八年

大権現開東河入國の時

上総 五豆 宅利 村 内 又 同 五 豆 村  
武川 河 崎 村 内 乙卯 乙卯 乙卯 乙卯  
乙卯 乙卯 乙卯 乙卯

台酒院殿

慶長二年六月二十七日  
甲十九歳 法名宗清

台長

右左衛門 生國 氏

元和九年

將軍家よりついでに

家紋 下巻丸

久保田

● 直重

久保田 生五甲別

武田信玄勝頼父子より

天正十年

東照大権現甲別法入玉の財正書され

有湯 一 年頃 一 度 あり

台正

助聖 中園同前 法名常庵  
武田信玄勝頼父子系トシ

台正

台正湯ツ 中園同前  
右権現  
台徳院殿ツ 中園同前

台正

角左衛門 中園同前  
右軍家ツ 中園同前

台正

小笠原 中園同前  
武田勝頼ツ 其後  
大権現甲州津入ツ の時ツ 右ツ 左ツ  
台徳院殿ツ 中園同前



之和七年正月十日自死之 法名花實定号

通正 チウシ

小舎米

中舎同前

大捨現

台酒院殿

將軍家へ送之 〇〇〇〇〇〇

貞盛 チウシウ

茂乃湯

廿國武州

盛勝 シウシウ

助乃湯

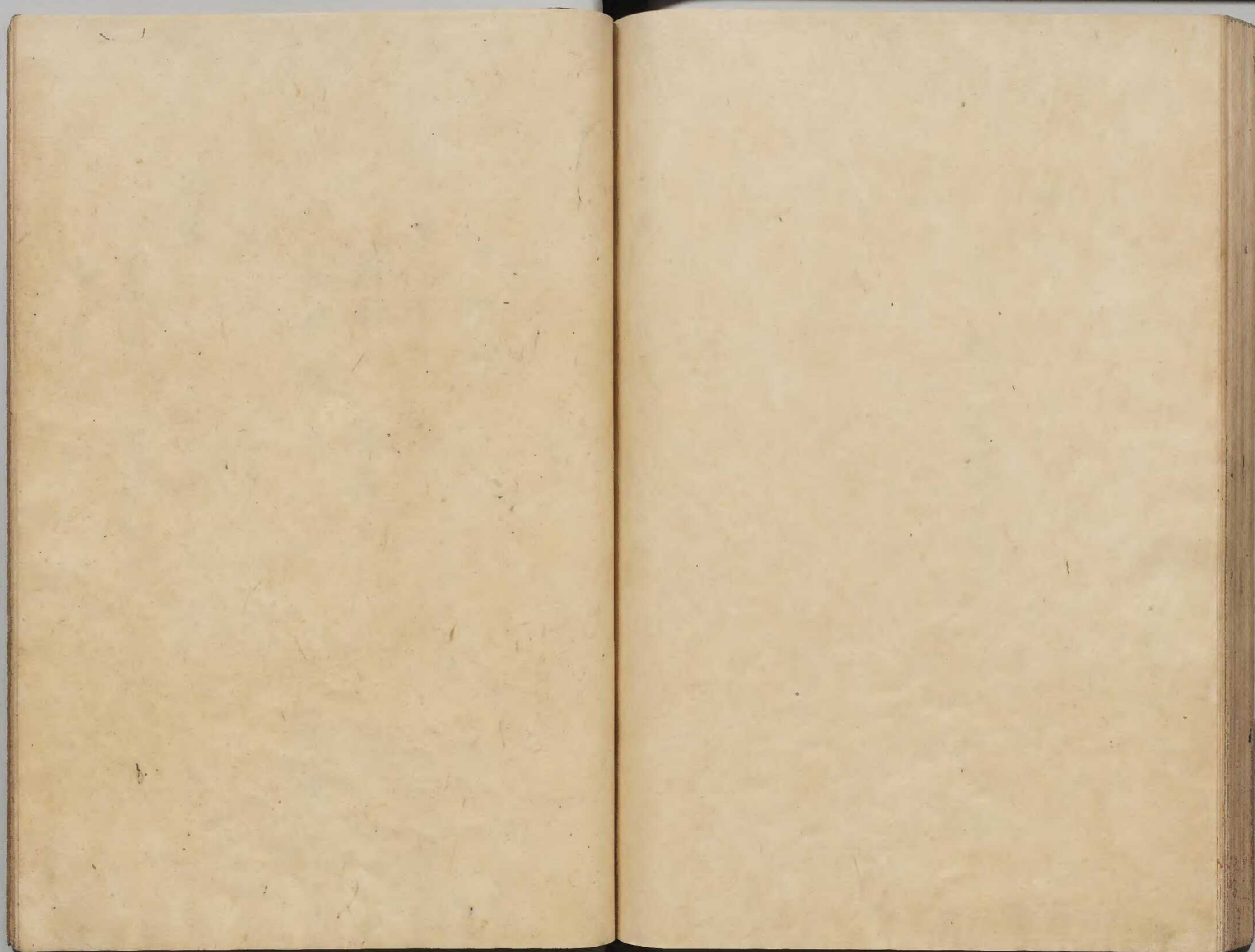
正綱 シウキウ

久乃湯

廿國同前

將軍家へ送之 〇〇〇〇〇〇

家紋丸の内 二葉栢 ニハヤク



正台

久保回

助 生國甲

或回信言了

信名西久

久台

与右忠 生國同前

信言了

天正十年

東照大権現甲別所入玉の時百八て  
大所奉と勤し其後清殿守清奉  
をけし

寛永二年六月晦日病死七十四歳  
法名源清

久重

牛首末

生玉同前

寛永二年十一月

大権現と有し

將軍家よりけしと有る物命

少しつゝ沖腰物奉行と有る

久次

与た歩つ 生玉末

將軍家と有る

正次

又六郎 生至甲斐

寛永四年八月

將軍家とありてあり大沙番とあり

家紋丸乃ゆゑとあり

貞重 坂本

宮内 生國 甲斐  
信虎 信玄

貞次

信玄 勝頼 父子  
信玄 勝頼 父子

足利二十人あつて是れ後別田中此  
城とす

天正十一年正月

大権理とあり則田中此城二のなるを

相も山南中津代友 以付らぬ

開東津入國以後相別波多野ふわ

二十字々村津代官 以付らぬ

文祿元年十月十八日七十六歳と死

法名順能

貞吉

宮内 生國因

勝頼

大権理甲別津入玉乃時百出と大権

乃紹

云正十二年長久手津陣小徳

乃長久手真田津陣の

台徳院殿とあり津陣此

同十二年正月朔自死之は乃道順五十一歳

重安

小左衛門 牛島 駿河

寛永七年十一月歳了

台湾院敵一石書之し大坂法陣に侍り勤

大坂城際山に軍功あり

元和九年

將軍家とあり

貞後

權十郎 生國 武藏 戸

寛永十八年 石書こきて

台湾院敵一石書之し大坂法陣に

侍奉為城乃とあり首級とあり

之和二子忠長卿小治之に甲列

おろし未地とあり大坂番と勤し

寛永十年

將軍家一石書之し大坂法陣に侍り勤



家ウヘノ級クニ丸マ乃ノ肉ニクノノ同ドウ扇セン

某

森本

助左衛門

生國甲斐

初武田勝頼より甲州没落の後

大権現より

右則

助左衛門

生國甲斐

大権現

台漣院殿 一ノ二ノ三

台久

助右衛門 生國寺

台漣院殿

將軍家 一ノ二ノ三

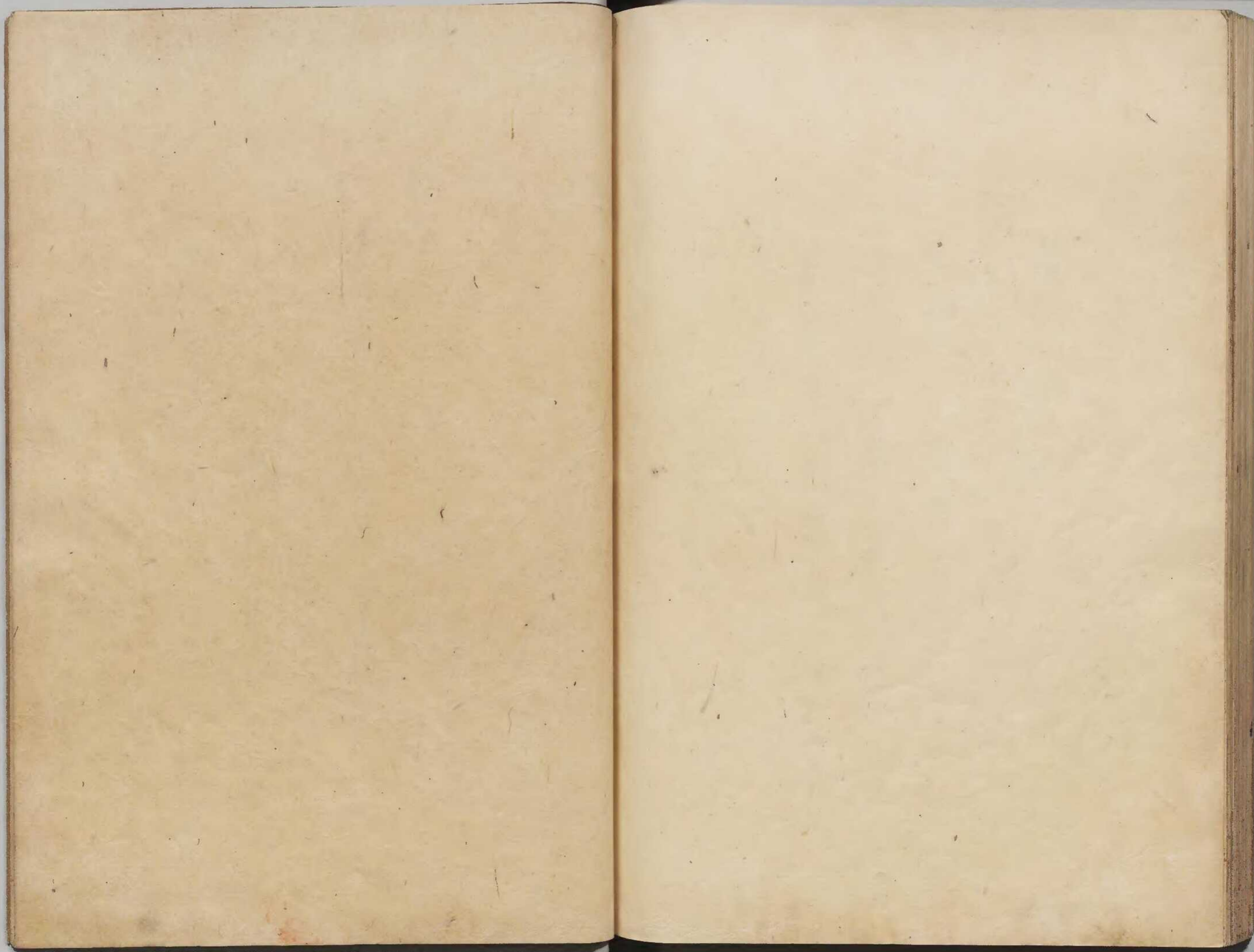
正久

助右衛門 生國寺

將軍家 一ノ二ノ三

寛永十七年 台漣院殿 勅 親吉之病 勅  
一ノ二ノ三

家紋 楠根



大木

親吉

甲府守 日勝守 生五甲別

武田信玄 勝頼 父子 一ツノ甲別 城

崎の店 七ヶ地 甲別 一ツノ甲別 城

法名 香雪 齋

親忠

其後 外記 生國回前

勝頼 ↑ ↑ ↑

天正十年甲辰沙入五乃々

大権現 一百石 進本館 七始 八乃

同子信所 若田清陣 乃時 乃々 乃々

同年八月八日二十九歳 乃々 乃々 乃々

法源

親信

又十郎 又宗 生國回前

親忠 討死 乃後

大権現 一百石 乃々 親忠 乃々 乃々

根岸村 乃々 乃々

台徳院 殿

乃軍 乃々 乃々 乃々

親茂

傳之助 茂宗 生國回前

之和九子

將軍家一子之在

實永十五子

鉤命小一子之半人

經此以之

忠告

長官

家紋乃由小柄葉

